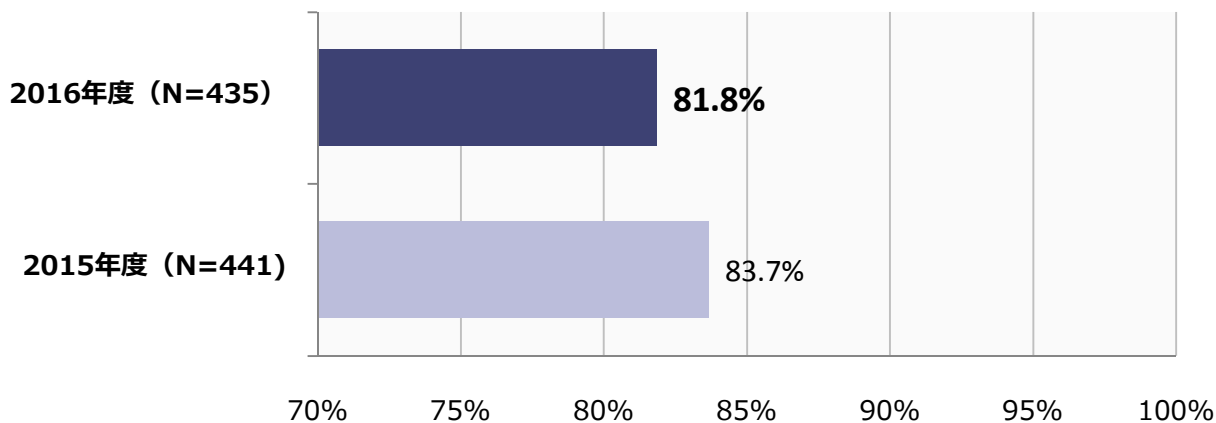


がん性疼痛緩和指導管理料加算率

WHO方式癌疼痛治療法はオピオイドの定期投与とレスキュードーズによる突出痛への対応、十分な副作用対策を行う事で70-80%以上の鎮痛効果が得られていると述べています。

医療用麻薬を使用することで、当院におけるがん患者の疼痛緩和ができ、更に医療者へ緩和医療の意識を高めることに繋がると考えます。がん性疼痛緩和指導緩和料を適切に算定することで、病院へも貢献できるものと思われま



当院値の定義・算出方法

分子： がん性疼痛緩和指導管理料算定患者数

分母： 医療用麻薬を使用している患者数

×100 (%)

※グラフ中のN数は分母の値を示しています。

解説(コメント)

がん性疼痛緩和指導管理票は、痛みの評価、副作用、治療計画、指導内容を確認することができます。

当院は全国平均よりオピオイドの使用率が低いこともあり、痛みの評価を行い積極的にオピオイドを使用し緩和医療を行う必要があります。

結果の考察と今後の取り組み

がん性疼痛緩和指導管理票を使用し、痛みの評価、副作用、治療計画、指導ができているのかを確認しました。

昨年と比較して軽度低下した要因として、入院の緩和ケア加算算定者のがん性疼痛指導管理料算定ができていなかったことが考えられます。外来患者においては、医師事務作業補助者の協力もあり算定数は増加しました。

CST (Cancer survivor Support Team:緩和ケアチーム)

委員長 鹿田 康紀